

■公開講座■

乙女文楽の多様な魅力

東西2座によるレクチャー&デモンストレーション



ひとみ座乙女文楽（胴金式）



乙女文楽座（腕金式）

乙女文楽は大正末に大阪に誕生した人形浄瑠璃。文楽の三人遣いに対し一人遣い形式で、女性ばかりで演じられます。戦後一部の演者が関東に移り住んだところから、東西に分かれて伝承され、操法も西では「腕金式」、東では「胴金式」と形式が異なります。

そのため人形の表現もそれぞれに異なる魅力をもっています。

今回は東西の座が共演し、実演と人形解説をお見せする、乙女文楽初めての試みです。

とき : 2024年2月18日(日) 14:00 (開場: 13:30)

ところ: 神楽坂セッションハウス (東京・新宿区)

参加費: ¥2,000-

出演: 乙女文楽座 (大阪府)

ひとみ座乙女文楽 (神奈川県)

主催: (公財) 現代人形劇センター

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金 (舞台芸術等総合支援事業 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)、独立行政法人芸術文化振興会



【主催・お問合せ・お申込み】 お申込み方法は裏面をご覧ください。

(公財) 現代人形劇センター

tel.044-777-2228 (平日 10時~18時) / fax044-777-3570

email ticket@puppet.or.jp / <http://www.puppet.or.jp>

乙女文楽とは

大正末期に大阪で生まれ、当初は十代の少女たちが演じて人気を博した。その特色は文楽の人形の仕組みに工夫を加えた一人遣い形式で、まず「腕金式」と呼ばれる操法が生まれ、その後文楽の人形遣い五世桐竹門造らが「胴金式」を考案した。それにあわせて、複数の座が人気を競い、戦後は往時の勢いをなくしつつも、誕生当初からの遣い手として大阪で吉田光子(腕金式)、神奈川県に桐竹智恵子(胴金式)が技芸を伝えた。

乙女文楽座

1994年、乙女文楽の復興を願う研究者土井順一により、座長に乙女文楽創生期からの演者である吉田光子（1915～2016）を迎えて結成された。座員の中心は、土井が以前から龍谷大学や相愛女子短大学で開催していた乙女文楽の研究会や講座の受講生たちである。

（在大阪府）

【公開講座内容】

- お話・乙女文楽の歴史と現在
林公子(近畿大学文芸学部教授)
- 実演と人形解説
腕金式 乙女文楽座
胴金式 ひとみ座乙女文楽
- 上演「傾城阿波の鳴門」・2座共演による
- 質疑応答

ひとみ座乙女文楽

1967年、創生期からの演者桐竹智恵子（1921～2008）に、現代人形劇の劇団であるひとみ座の女性座員が師事し、1968年に結成される。同年の初公演以来、次第に活動を国内外に広げて活動。地元川崎市での普及活動や青少年後継者の育成も行う。

（在神奈川県）



合同研修講座のようす（「二人三番叟」）

★両座は、2021年から毎年「合同研修講座」を開催し、初めて交流の機会をもち技芸についての相互理解を深めた。この公開講座はその成果発表でもある。なおこの研修には、桐竹智恵子門下の他座も参加している。

【会場】 神楽坂セッションハウス 162-0805 東京都新宿区矢来町 158

